

輝け角鹿

初夏の爽やかな風を感じます
令和元年5月吉日
敦賀市立角鹿中学校



校長室より

5月、晴天の空と爽やかな海風が吹く季節です。ただ近年夏は急速に気温が上がります。今週末に体育大会を開催する小学校では、毎日の暑さ対策に追われています。本校の体育大会は6月8日、今から暑さが心配です。今週体調を崩して(頭痛や腹痛)保健室のお世話になる生徒が後を絶ちません。色々な理由や原因があるのですが、中でも体育の授業後に不調を訴える生徒は朝食をちゃんと食べていない、前夜の就寝時刻が遅い(12時過ぎ)ことが多いようです。そしてその殆どが男子生徒。同性として「しっかりと飛べばいいよ！」と激励を飛ばしたくなります。これから始まる練習を元気に乗り切り、全校生徒が大きな達成感を手に入れる体育大会になつてほしいものです。

先週、3年生は2泊3日の修学旅行を終えました。旅行中体調を崩す生徒は一人もおらず、班活動では集合時刻も厳守し予定以上の内容を消化できた、他に誇れる修学旅行でした。目を見張ったのは男女を問わず旺盛な食欲です。「こんなにしっかりと食べる修学旅行生は珍しいです。」とわざわざ伝えてくれる店もあり、「食べる」が元気の根源であることを証明しました。また今回の旅程は電車と徒歩での移動が多く、しかも早足(時には駆け足)の場面もあったのですが、そのことで弱音を吐く生徒もおらず、霞ヶ関では高層ビルを見上げて素直に感心する姿、人々の歩く速さに驚きつつも負けずに追従する姿、駅のエスカレーターよりも階段の方が速いと駆け上がる姿、満員電車にひるむことなく乗り込む姿など、その食欲と合わせて「今年の3年生」の逞しさを実感できた3日間でした。

「知・徳・体のバランスがとれた人間の育成」とよく言われます。しかしこの3つを一軒の家と見るなら、その基礎となるのは体力です。基礎が緩ければ家が傾くように、体力が無ければ勉強も体験も、コミュニケーションも、そして将来的には仕事も十分にはできません。そのことを一番よく知っているのは、日々働いて家族を支え子ども達を育てる私たち大人です。ひと昔前、「24時間戦えますか?」というドリンク剤のCMが話題になりました。体力と根性がもてはやされた高度経済成長時代は終わりを告げ、今は働き方改革、ライフワークバランスのとれた人生を、という時代です。しかしだからといって「体力はもう不要」のではありません。平均寿命の伸びは、人生90年時代に突入しようとしています。過労死はごめんですが、子ども達が70歳まで元気に働き、その後も充実した人生を送るためには、そしてできれば親の面倒もしっかりと見てくれる? ためには、健康で元気が身体が第一です。明日の「早寝早起き」つまり朝食」はそのための第一歩です。

5月～6月の行事予定

- <5月>
- 28日(火) 小中合同避難訓練
- 31日(金) 第1回英語検定(3級以下)
- <6月>
- 2日(日) 第1回英語検定(2級以上)
- 4日(火) 歯と口の健康週間から6/10
- 5日(水) 中間テスト範囲発表 これより部活動停止
- 8日(土) 体育大会
- 10日(月) 振り替え休日
- 12日(水) これより中間テスト週間
- 14日(金) 岐阜県八百津東部中学校との交流(2年生)
- 19日(水) ~20日(木) 1学期中間テスト

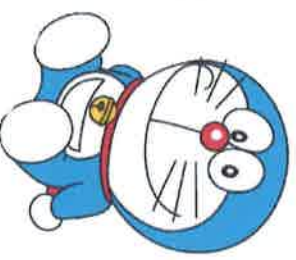




教頭より

知ってク！知って得て強くなる！

次の3問は私立中学校の「入試問題」として実際に主題されたものです。つまり、小学6年生の受験生が解く問題です。

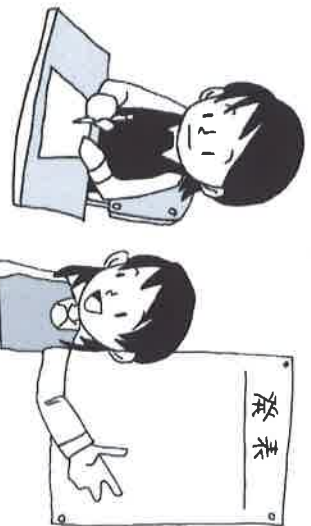


○99年後に誕生する予定のネコ型ロボット「ドラえもん」。この「ドラえもん」が優れた技術で作られていても、生物として認められることはありません。それはなぜですか。理由を、答えなさい。(2013麻布中学校)

○『安ければいい』という基準で選んでしまう食べ物の例とその食べ物の問題点をあげて、『取り返しのつかないこと』がおきないようにするにはどうすればよいか、あなたの意見を述べなさい。(2018横浜女学院中学校)

○もしあなたが国連の食糧問題の担当者だとしたら、日本の中学生に対してどのような活動をしますか。(2019大宮開成中学校)

ある大学入試予備校の講師は「これらの問題は、そのまま大学入試に出題されても全とおかしくないし、大学入試で出題されると、手も足も出ない受験生も多くいると思う。」とコメントしています。

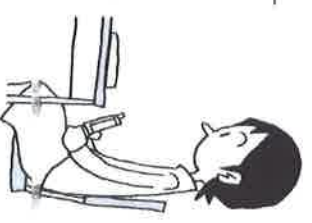


このような問題は、「アウトプット型問題」と呼ばれています。アウトプットとはここでは「生み出す・発信する」という意味です。今後アウトプット型の出題は、どんどん増えていくと思います。しかし、学習時に、単純にアウトプットばかりくり返しても、内容の質(レベル)は上がりません。アウトプットするためには、

土台となる「知識」が必要です。時代が進むにつれ、頭の中に全てを暗記・記憶している必要性は、「絶対」ではなくなっていくことでしょう。辞書、教科書、参考書、はたまたスマホやパソコンの持ちこみが、テストで許されても、「アウトプット」型の問題では、答えが全く同じになつたりしません。むしろ他にまねのできない答えほど、値打ちが出るでしょう。限られた時間内に、「知識」を、使える形で取り出せる能力が重要になります。しかも、はば広い知識が使えるほど、ユニークな発信ができるようになります。

今の時代、「リアル暗記」の知識は通用しません。しかし、はば広い、たくさんの「インプット経験」が必要だということです。

さあ、みなさん、忘れることや覚えられないことをこわがらずに、また、そんな理由であきらめたり、逃げたりはせず、どんどん、どんどん、「インプット」と「アウトプット」の経験を、積んでいきましよう!



「経験は力なり！」